

D-13 高校家政科「児童心理」の学習指導に関する予備的研究 理解度に於ける一考察

富山県立富山女子高 小堀美智子

1. 新しく高校家政科に「児童心理」が課せられたので、カリキュラム作製の原理に従って社会的要求を考慮し、児童理解を前提とした実際の学習指導を行なうため、各教法を採用し、指導法の相異による児童理解度を見ようとする。

2. 指導法を主にしてA、Bの2群に分け、さらに男子と女子の理解度の比較を見るためにB群をB₁(女子)B₂(男子)の2群に分けて、各々3名の生徒について3回に亘り授業を行なう。さらに教育効果の測定のために、(1)授業及び観察実習後の意見調査紙を行なう。(2)保育態度調査用紙の二種の質問紙を行なう。(3)幼児期の教育についての反省記録を提出させる。

3. (1)実際の学習指導を行なう場合には発達の横の考察法によって実践した方が指導が現実的となり、効果が大きい。(2)教師中心の学習指導法よりも、観察期間を設けたり、討議法による指導を行なった方が、生徒の自発的関心と興味を高め、自主的創造的な態度を養なう。即ちB群に顕著にこの差異が現われ、既成概念のみに留まらず、積極的な態度が見られた。(3)回を重ねる度に発達の見方をするようになり、徐々に具体性を帯びて心理的に把握するようになり、B₂群において視聴覚的方法の指導後急速に学習意欲が増大し、理解度を高め、知識や経験の体得を効果的にし、教育効果が最もすぐれて現われた。